



家庭・幼児教育・学校教育から社会へ

Keywords: 教育機関の接続、社会への移行(トランジション)、地方政策、漸進的教育無償化

● 研究概要

子どもたちや若者が、自分の進路を自分自身で選びとり決めていく、その可能性を豊かに保障していく学校・行政・地域の地道な取組みに着目し、「接続」と「移行」を視点としてトータルに研究しています。



所属:

教養・基礎教育部門
教授

氏名 渡部(君和田) 容子
Watanabe(Kimiwada) Yoko

URL: <https://www.kindai.ac.jp/bost/research-and-education/pickup/licentiate/>

● 研究テーマ

1・地方における保育・教育と漸進的教育無償化

2012年、日本は国際人権規約(社会権規約)13条2項の留保を撤廃し、中等教育および高等教育の漸進的無償化への義務を負うことになりました。無償って全部タダ? 大学へ行く人行かない人不公平じゃない? お金のある人も? 保育の方が先では? …様々な議論がある問題について、「漸進的無償化」の理念と具体策を研究的に探る共同研究(JSPS科研費JP15H03474)に参加し、主に地方県における無償化への取組みを研究しています。

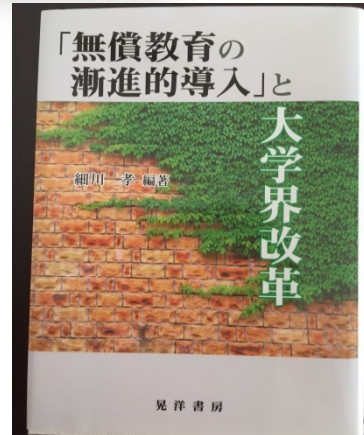
2・保育所/幼稚園と家庭・小学校・地域との連携

子どもたちの1日24時間全体を見通し、さらに卒園後の育ちを思い描いた保育、小学校とのなめらかな接続を保障するカリキュラム、行政のサポート等を、保育者養成の実践に係る課題から追究してきました。

幼児期の保育・教育は、その後の成長発達に大きく影響することはもちろん、親世代の働き方にとっても重要な問題です。また、福祉・教育の分野は、資格取得をして定住を希望する若者の働く場としても魅力的です。総合的な観点から研究を続けています。

3・工業科教員の養成・産業教育の充実

科研費研究(代表)として、「高等学校工業科教員の養成・採用・研修に関する実証並びに比較研究」、「工業高校・高等専門学校・大学工学部の教育システム上の接続関係に関する研究」、「工業高校・高等専門学校・大学工学部・専門学校の接続に関する実証的研究」等を行ってきました。2018年度生物理工学部戦略的研究Ⅲでは、「高等専門学校に関する制度的基礎研究」に取り組んでいます。



著書1



著書2



著書3

● 関連の著書・論文・発表等

【著書】

1. 細川孝編著(2014) 高等教育における「無償教育の漸進的導入」と大学界改革、139-166(第7章) 晃洋書房
2. 金村美千子編著(2009) 保育原理-保育者になるための基本-、第二版、69-82(第6章)、同文書院
3. 小川正人他編著(2006) 市民と創る教育改革-検証: 志木市の教育政策-、152-165(第8章第2節)、日本標準

【論文】

1. 渡部(君和田)容子(2018) 保育・教育費負担の現状と地方自治体による支援-漸進的教育無償化の視点から鳥取県を事例として-、生物理工学部紀要 42 投稿中
2. 渡部(君和田)容子(2018) 高等学校工業科教員の欠員・過員問題と養成、生物理工学部紀要 41、1-11

【発表】

1. 渡部(君和田)容子、「漸進的教育無償化プログラム」中間提案に関連する地方施策-鳥取県を事例に-、日本教育学会第76回大会(於桜美林大学)、2017年8月25日
2. Akio WATANABE, Yoko WATANABE(KIMIWADA), (2015) Impact of an International Legal Norm of “the Progressive Introduction of Free Education” on Secondary/Higher Education Policy in Japan, The 16th International Conference on Education Research(October 14-16,2015), Seoul National University, Hoam Convention Center.